

編集後記

*司会…市來津由彦先生（本学特別招聘教授）

本号『陽明学』第三十二号は、二〇二一年十二月四日（土）に二松学舎大学九段校舎で開催された陽明学研究センター主催のシンポジウム「陽明後学研究の現在」の特集号です。このシンポジウムは以下のようなプログラム（概要）で実施（対面及びインターネット配信）されました。

○基調講演

鶴成久章先生（福岡教育大学教授）

「明代の白鹿洞書院と陽明学派―王畿の「白鹿洞統講」を中心に―」

三浦秀一先生（東北大学教授）

「『性理大全書』改訂運動と陽明後学―『詹氏性理小辨』考―」

○研究発表

久米晋平先生（秀明大学専任講師）

「明儒劉元卿の〈学〉について」

山路裕氏（二松学舎大学院博士後期課程）

「王畿思想における「天泉橋問答」の位置」

幸いなことに、諸先生方がシンポジウムでご発表くださった最新の研究成果をご論叢として頂くことができ、本誌に掲載することが叶いました。玉稿を御執筆いただいた先生方に感謝申し上げますとともに、シンポジウムに足をお運びの皆様、インターネットで参加くださった皆様に御礼申し上げます。

また本号にはシンポジウム発表者でもある山路裕氏の「研究ノート」に加え、連載の『朱子語類』及び『龍谿先生全集』の訳注も収録しております。ご一読いただければ幸いです。

所謂「コロナ禍」の多方面にわたる社会的影響により、通常の研究活動、特に資料収集や学会活動の制限が続いています。が、学術研究そのものが停滞しているわけではありません。

陽明学研究センターでも引き続き、国際シンポジウムの企画、『陽明学』の発行を進めてまいります。何かご意見、ご希望がございましたら、本センターまでお寄せください。

（文責…田中）